

科目名	日本文化論特講 I	担当者	コンドウ 近藤 ケンシ 藤 健史	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>古代日本人の人々が、外国からの「文化」や「言語・文字」を受け入れたことにより、何を創造したのかを考えることを目的とする。具体的には、奈良時代における東アジアとの異文化交流にあつて、日本人は何を創造したのか、どのように外国語と付き合っていたのか明らかにする。以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考力をはじめ、問題発見・解決力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 日本文化の原点を考えることで、日本語や日本文化、東アジア文化など、国境を越えて移動する人々の言語と文化の様相を理解し、分析する能力を習得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 古代日本における異文化交流について説明でき、そこから創造された新しい文化を分析・探求でき、それを論述できる。現代社会における異文化交流に配慮できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 教材テキストを在宅学修して、レポート課題について図書館や資料館などを利用し参考文献等を調査した後、レポートを作成し、教員より数回の添削指導を受けることを基本とする。(自習、自主研究、レポート作成)</p> <p>【学修時間】 レポート課題1つにつき、準備から完成まで、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：20時間 レポート執筆：10時間 レポート推敲(教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15時間</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材『万葉びとの生活空間』を学修して、前期レポート課題(1)(2)について、初稿は7月末までに、最終稿は9月19日(前期締切日)までにレポートを提出する。</p> <p>後期：基本教材『古代日本人と外国語』を学修して、後期レポート課題(1)(2)について初稿は11月末までに、最終稿は1月14日(後期締切日)までにレポートを提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	教材・課題の理解度。論旨の一貫性。要約力。表現力。解釈の妥当性。
	観察記録		
履修者への要望	<p>参考文献に示したもの以外にも、各自で関連する研究論文等を探して読んで欲しい。単に基本教材のまとめにならないように、積極的な熱意のあるレポートを望む。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 上野誠 教材名： 『万葉びとの生活空間』（塙書房，はなわ新書 078，2000 年）ISBN:978-4-82-734078-5 1,200 円+税
	本教材は、飛鳥・奈良時代の万葉びとが生活した空間の中で、どのような万葉歌の表現が生まれてきたのかについて述べている。具体的には、万葉びとと「都」「庭園」「耕作地」などの生活空間との関係である。
参考図書	上野誠『万葉びとの奈良』（新潮，新潮選書，2010 年）ISBN:978-4-10-603655-2， 1,100 円+税 渡瀬昌忠『渡瀬昌忠著作集 第六巻 島の宮の文学』（おうふう，2003 年）ISBN:978-4-27-303256-2 12,000 円+税 辰巳正明『悲劇の宰相・長屋王』（講談社，1989 年）ISBN:978-4-06-258019-9 参考文献は、教材の巻末に「参考文献一覧」と記してある。
履修上のポイント	東アジアにおいて、「武」の王から「文」の王に転じようと帝王たちは歴史に名を残す「庭園」を造ったという。わが国においても飛鳥・奈良時代から王の宮や個人の邸宅に「庭」が造られた。古代庭園の思想が、歌や生活とどのようにかかわるのかを理解することが大切である。 本教材の「はじめに」を必ず読むこと。
レポート課題 1	万葉びとの生活空間における「シマ」と呼ばれる庭園の文化的意味について説明してください。 <b>留意点：</b> 庭園が「シマ」と呼ばれる意味、「島の大臣」の呼称、「島の宮」の主人、「島の宮」の歌（巻 2-171～193）などについて考える。
レポート課題 2	長屋王の庭園，作宝楼における「菊花の宴」と「尾花の宴」の歌の場とその意味について説明しなさい。また、二つの宴の様子を想像し，説明してください。 <b>留意点：</b> 「菊花の宴」（『懷風藻』66・68・71）と「尾花の宴」（『万葉集』巻 8-1637・1638）を理解すること。そして「菊花」「尾花の室」の意味することについて考える。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 湯沢質幸 教材名： 『増補改訂 古代日本人と外国語—東アジア異文化の交流の言語世界—』（勉誠出版，2010 年）ISBN:978-4-58-528002-6 2,800 円+税
	本教材は、古代日本における異国言語との格闘の歴史を明らかにしたものであり、「言語」から考える東アジア文化交流史である。なお「主要参考文献」が巻末にある。
参考図書	平川南他編『文字と古代日本 2-文字による交流—』（吉川弘文館，2005 年）ISBN:978-4-64-207863-4 6,500 円+税 岸俊男編『日本の古代 14-ことばと文字—』（中央公論新社，1996 年）ISBN:978-4-12-402547-7 1,748 円+税 大島正二『漢字伝来』（岩波書店，2006 年）ISBN:978-4-00-431031-0 760 円+税
履修上のポイント	古代日本人は、東アジアの人々とどのような言語で交流し対処していたかを学んで欲しい。
レポート課題 1	古代日本人は、外国語に何を感じたのか説明しなさい。 <b>留意点：</b> 呉音・漢音・仏教界・儒学界などをキーワードとして考えること。
レポート課題 2	古代日本における「通訳」の役割と実態について説明しなさい。 <b>留意点：</b> おさ・対象国・身分・養成などをキーワードとして考えること。